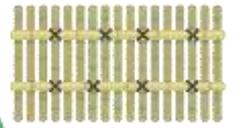




小雀公園 里山通信



Vol.19 公園の竹を利用した竹垣作り



ゴールデンウィークが終わると、一気に心も体もグッタリです。あーやだなあ、なにもしたくないなあ…。これが俗にいう五月病でしょうか。疲れちゃってもうダメ…というのは人間だけではなく、植物にもそんな雰囲気のものがあります。小雀公園には竹林があるのですが、冬までは葉っぱが青々していたのに、今は黄色くなってハラハラと散っています。これは「竹の秋」とも言われる現象で、勢い良く成長するだけのこに養分を費やしてしまい、親竹は元気がなくなり葉が変色して落葉してしまいます。反対に秋には葉が青々とすることから「竹の春」と言われ、これらは俳句の季語にも使われます。「すっかり竹の秋だね」とか言ってみれば、知識人ぶることができるかもしれませんよ。

竹は親が衰弱するほどの勢いで一気に成長する植物なので、放っておくと竹林がえらいことになってしまいます。昔はざるなどの日用品に竹を用いることが多かったので消費されていましたが、今はほとんど使われなくなってしまいました。しかも加工品には真竹を使うことが多く、小雀公園に生えるような孟宗竹は、たけのこ栽培か寺院の景観植栽でしかありません。京都のお寺さんのように美しい竹林を保つには、どんどん伐採して新しい竹と更新しなければならないですし、そうするとゴミ処分量が多くて大変です。

そこで少しでも竹を消費できるようにと、この度レストハウス脇に竹垣を設置しました。デザイン竹垣と称し、建仁寺垣、竹穂垣、四ツ目垣のミックスにしてみました。今後四ツ目垣には蝶が好むツル植物を這わそうとたくらんでいますので、生物多様性にも反映されるはずですよ。子供の日には鯉のぼりを掲揚したのですが、やっぱり日本の伝統行事には日本らしい竹垣がぴったりはまっていい感じでしたよ！



小雀公園 ☎045-853-1945
<https://midocomi.com/kosuzumepark.html>
横浜市指定管理者 緑とコミュニティーグループ

